



おおぐち しろう
大口司郎 議員
OGUCHI Shiro

Q. 洪水対策について

A. 各種基準に基づき計画を行う

Q 現在の杉の木川、久田良木川、堂前川の河道の状況はどうか。洪水時の水位は実際にどれくらいなのか。

境川の改修計画の概要は、

基幹的広域防災拠点の下流部の中江川へ樋管で放流されると聞いているが、進捗状況は。

A 産業建設部長

杉の木川、久田良木川、堂前川は、昭和51年度に策定した全体計画に基づき、10年に1回程度発生する雨に耐えられるよう、改修を順次行っている。近年、計画策定当時の降雨量より多くなっているため、全体計画の見直しを行い、流下能力を有していることを確認している。

境川には、本町との境界部分が未改修の状況となっている。名古屋市に委託し、令和4年度より10年に1回程度発生する雨に耐えられるよう、改修を行っている。基幹的広域防災拠点からの雨水排水を中江川に流す下水道管きよは、県が施工することとなり、既に工事発注がなされている。

Q 境川の洪水に対する安全性はどうか。想定されている確率降雨はどうか。溢水のおそれはないのか。河道に余裕は設けられているのか。

同様に、杉の木川、久田良木川、堂前川の洪水に対する安全性はどうか。防災拠点下流部の中江川樋管までの排水路や樋管の洪水に対する安全性はどうか。

A 産業建設部長

境川、杉の木川、久田良木川、堂前川の確率降雨は、10年に1回程度発生する雨である1時間63ミリである。改修計画の策定においては、河川管理施設等構造物など各種基準に基づき計画を行う。余裕高は、適正に設けている。

中江川までの排水路の確率降雨は、5年に1回程度発生する雨である1時間52ミリで、これに耐えられる大きさの管きよ整備を計画している。余裕率は適正に見込んでいます。

Q 久田良木川排水機場について、改修工事の内容を

説明願いたい。現況毎秒10m³が、毎秒13m³増強されると聞いたがその効果は。毎秒13m³増強の根拠は。

「新川流域総合治水対策」「流域水害対策計画」で何か制限を受けるのか。解消する計画はあるのか。

A 産業建設部長

排水機場は毎秒10m³の能力で供用している。しかし、基地内の形質変更や都市化による流出量の増加により、ポンプゲートを設置し毎秒23m³へ増強する。効果については、床上浸水の解消を図る。改修工事は、名古屋市に委託し、工事を進めている。

新川・五条川の水位が上昇し、越水・破堤の恐れがあるとき、破堤による壊滅的な被害を避けるため、新川流域排水調整要綱に基づき、排水停止を行う場合がある。

大山川については、河川改修や調節池の整備が河川整備計画に位置付けられているので、早期に完了するよう、継続的に要望を行っている。

Q 中江川に設置した樋管の性能について、排水の能力はどの程度のものなのか。この樋管についても「新川総合治水対策」「流域水害対策計画」の制限を受けるのか。

基幹的広域防災拠点について、地元への説明や姿勢について、たびたび疑問視されることもあった。青山地区の洪水に関して、豊山町として地域住民への適切な説明を繰り返し、住民が不安に思っていないようにしていただきたい。

A 産業建設部長

中江川の樋管からの放流量は、新川流域水害対策計画に基づき、中江川の能力や下流域で氾濫が生じないよう毎秒2.325m³で許可を受けている。

基幹的広域防災拠点から排出される雨水は、この条件を満たす水量を抑える対策として、雨水調整池を設けるなど、住宅地に配慮した計画になっている。今後も地域住民の不安解消のため、適切に対応してまいります。